



2020年度
事業報告書

2020年 4月 1日から

2021年 3月31日まで



社会福祉法人 福寿会

社会福祉法人福寿会の基本理念

1. その人の基本的人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

令和2年度 社会福祉法人福寿会の事業報告

社会福祉法人福寿会の現況に関する事項

- (1) 事業概要 P 2
- (2) 職員の状況 P 3
- (3) 理事会及び評議員会 P 4
- (4) 部門別報告 P 5 ~
- (5) 施設外研修一覧 P 3 5
- (6) 地域公益活動報告 P 3 6



社会福祉法人福寿会の現状に関する事項

(1) 事業の経過と概要

令和2年度は、当初、令和1年10月にリニューアルオープンした「奈良デイサービスセンター」、同年12月にオープンした「登美ヶ丘マミーズ保育園」、両施設の本格稼働を計画しておりました。

しかしながら、コロナウイルスの猛威は令和2年度も続き、安全の確保を最優先に運営せざるを得なく、計画の修正を余儀なくされました。感染症対策を講じながらの運営は制限も多くありましたが、そのような環境下でも、自分たちに出来ることを考え続けた年度となりました。

地域貢献におきましても、計画していた「地域交流スペース」の活用はできませんでした。人と人との直接的な交流を持つことは難しい環境にあったため、違う形での地域貢献を考えました。平城園の南側隣地を購入も、その一環でございます。見通しの悪い三叉路であり、地域の交通安全に貢献できるのではとの思いから購入に至りました。今後、更なる貢献ができるような用途を考えて参ります。

サービスの質の向上については、定期的な研修を軸に計画を立てておりました。令和2年度は、集合研修の開催が難しい環境にありましたが、オンライン研修に形を変え受講することが出来ました。介護職員の負担軽減と介護事故防止についても一定の進捗がありました。施設内のネット環境の構築を実施致しました。令和3年度は、介護記録等のシステム化を進め、介護職員の負担軽減を実現させる計画です。加えて、施設内防犯カメラの設置することで、介護事故防止体制を強化いたしました。引き続き、介護事故防止に努めて参ります。

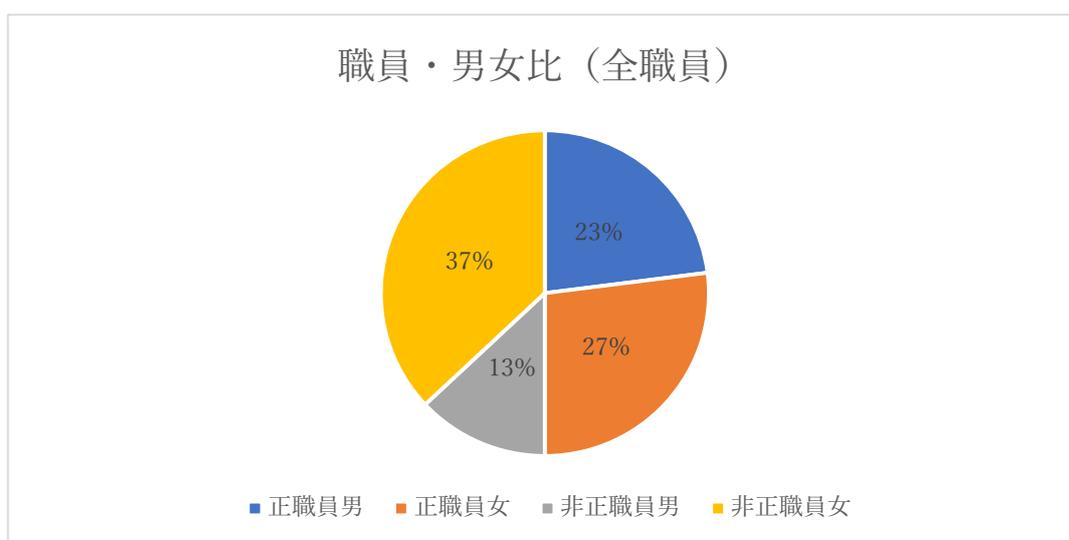
人材についてです。人材確保については、特に「登美ヶ丘マミーズ保育園」に注力致しました。オープン直後であり、人員不足の状態にありましたので、集中して採用を進め、園児を安全に預かることが出来る体制を構築致しました。人材育成については、法人内の人事考課制度の見直しを行いました。引き続き、職員が働き甲斐を感じ、成長意欲が持てる職場環境造りに努めて参ります。

(2) 職員の状況

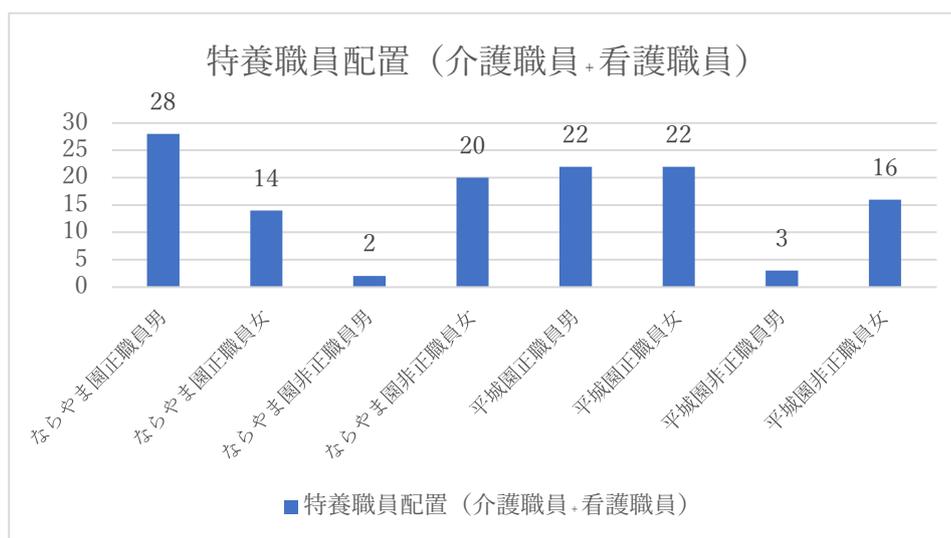
令和3年3月31日現在における職員数正職員 142人 非正職員 143人 (合計 285人)

	ならやま園	平城園	ヴィラ秋篠	登美ヶ丘マミーズ 保育園	計
正職員	61人	65人	2人	15人	142人
非正職員	56人	65人	9人	12人	143人
計	117人	130人	11人	27人	285人

① 職員・男女比 (全職員)



② 特養職員配置 (介護職員+看護職員)



(3) 理事会及び評議員会

理事会

開催日	主な審議事項	出席
令和2年6月6日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経理規定の一部改正について ・ 令和元年度第2次補正予算（案）について ・ 令和元年度事業報告（案）並びに計算関係書類及び財産目録（案）の承認について ・ 事務局長 秋吉将臣の採用について 他	
令和2年9月18日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定款の一部変更について ・ 独立行政法人福祉医療機構からの融資の担保として、新たな基本財産となる土地を提供することについて ・ 平城園施設長として秋吉将臣を選任することについて 他	
令和2年11月10日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員会に新理事候補を推薦する件について ・ 評議員選任・解任委員会の選任について 他	
令和3年3月1日	第1号議案 福寿会と(株)平城福祉企画との「保育園課内講義の業務委託契約」の締結について 第2号議案 登美ヶ丘マミーズ保育園の運営規定・重要事項説明書の変更について 第3号議案 土地の取得について 第4号議案 令和2年度補正予算（案）の承認について 第5号議案 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について 第6号議案 育児介護休業規定・就業規則・給与規定の一部改正について 第7号議案 評議員選任・解任委員会の選任について 第8号議案 登美ヶ丘マミーズ保育園の園長の採用について 第9号議案 第4号、5号議案について、定款14事項第4項に基づき、評議員会の決議を省略する方法によること	理事 4名 監事 2名

評議員会

開催日	主な審議事項	出席
令和2年6月19日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度計算関係書類及び財産目録の承認の件 ・ 令和元年度事業報告の承認について 	
令和2年10月1日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定款の一部変更について ・ 独立行政法人福祉医療機構からの融資の担保として、新たな基本財産となる土地を提供することについて 	
令和2年11月18日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 補欠の理事1名の選任について 	
令和3年3月24日	提案事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度補正予算について ・ 令和3年度事業計画並びに収支予算について 	

(4) 部門別事業報告

特別養護老人ホームならやま園 (定員 84 名)

○介護部門

今年度は新型コロナウイルス感染症から、利用者を、利用者の生活を守ることが使命となった。行政、保健所、老施協などからくる情報を基に、まずは職員が感染しないように研修や、資料など回覧し、生活の中で自粛を求めた。また、体調の悪い時や、家族の体調不良時にも早めに休職を促した。利用者の家族との面会を自粛せざるを得なくなり、ガラス越しやタブレットを使ったものとなった。集団でのレクリエーション、行事も縮小を余儀なくされ、いかに利用者の生活を維持していくのかを検討してきた。幸いなことに大きく体調を崩される方はいなかったが、今後も感染症の対応は長引くことが予想されるため、ADL の低下、認知症の進行、意欲の低下など考え得る利用者の体調の様子観察に努めたい。

- (1) 介護人材の育成・確保のため、働きやすい環境を整える。また職員の希望や悩みに耳を傾け、離職をなくすについて

コロナ禍において、会議や面談、相談ができにくい環境の中、リーダー長、リーダー、相談員が細目に職員に声をかけた。今年度もほとんど退職者がいなかったのは、その成果と考えている。今後も介護人材の育成・確保のために職場の環境を整えていきたい。

- (2) 介護だけでなく、社会人として成長できるように、魅力的な研修を行うについて

計画では外部講師を招き年に 2 回以上の研修を行う予定にしていたが、コロナ禍において実行ができなかった。感染症の状況が落ち着き次第に、魅力的な研修を企画・立案していきたい。

- (3) 認知症ケア専門チームを立ち上げ、認知症介護に対する勉強会を行うについて

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修の受講生、施設ケアマネジャーとともに、認知症があっても「その方らしい」生活ができるように研修を行う予定であったが、コロナ禍において書面の研修、勉強会となった。実践的な研修ができるように、今後も検討を行っていきたい。

- (4) 地域の防災拠点としての役割を果たせるように、大規模災害の対策を講じるについて

災害発生時、新型コロナウイルス感染症の発生時の BCP (事業継続計画) を法人で策定を行った。また今後、奈良市の「福祉避難所等 設置運営ガイドライン」を基に、避難所を開設時に混乱が生じないように、行政、地域の方とも訓練を計画している。

① 在園年数 (R3. 3. 31 現在)

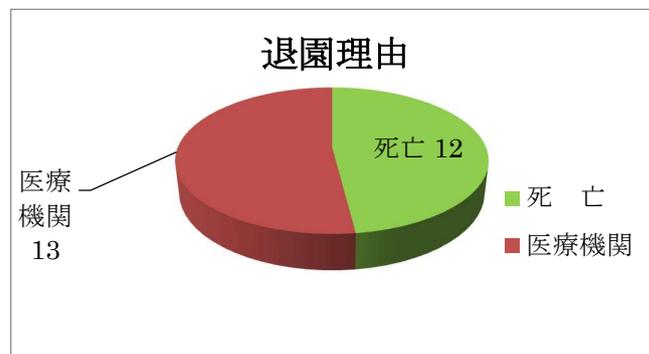
	1 年未満	1 年～ 3 年未	3 年～ 5 年未	5 年～ 7 年未	7 年～ 10 年未	10 年以上	計
男性	4 名	5 名	0 名	0 名	0 名	0 名	9 名
女性	16 名	33 名	9 名	7 名	5 名	2 名	72 名
合計	20 名	38 名	9 名	7 名	5 名	2 名	81 名

② 利用者年齢構成 (R3. 3. 31 現在)

区分	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男性	0名	1名	2名	0名	2名	4名	0名	0名	9名
女性	0名	2名	2名	12名	13名	23名	15名	5名	72名
合計	0名	3名	4名	12名	15名	2名	15名	5名	81名

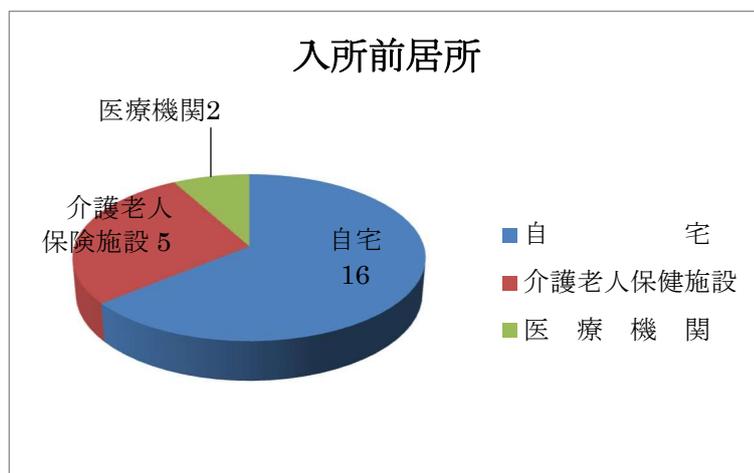
最低・最高年齢 (R3. 3. 31 現在)

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	71歳	93歳	86.2歳
女性	70歳	104歳	90.0歳



入退園の状況 (年間)

	性別	年間合計
新規利用者数	男性	6人
	女性	17人
退去者数	男性	7人
	女性	18人



③ 利用者介護度別延べ人数 (従来型)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	介護度平均
R2年度	0	0	5,251	8,816	4,413	18,480	4.00
R1年度	0	0	2,832	10,468	4,144	19,552	3.93

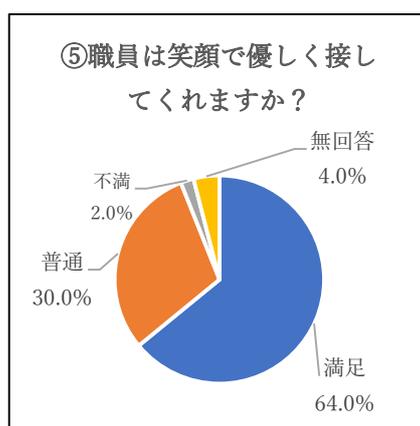
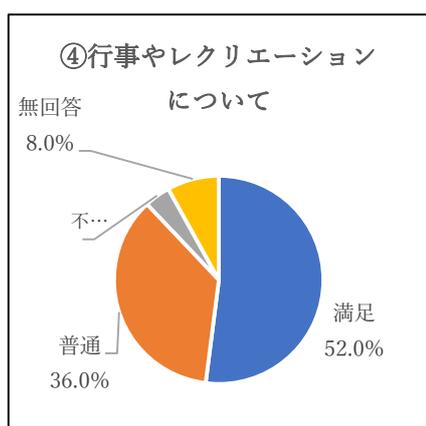
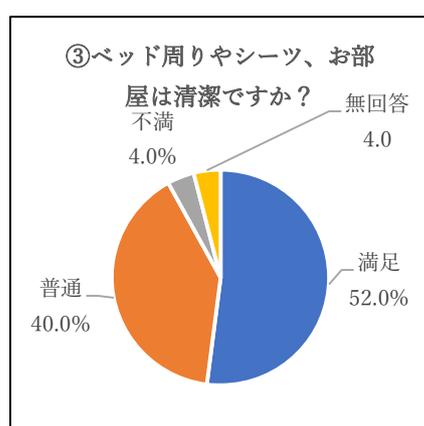
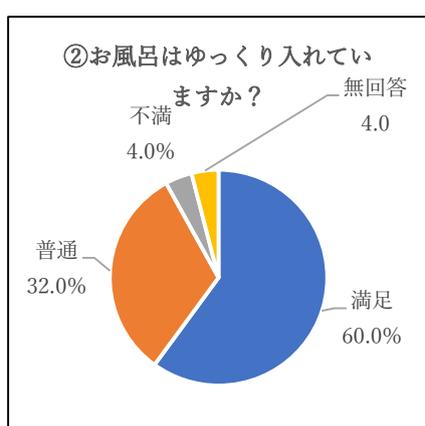
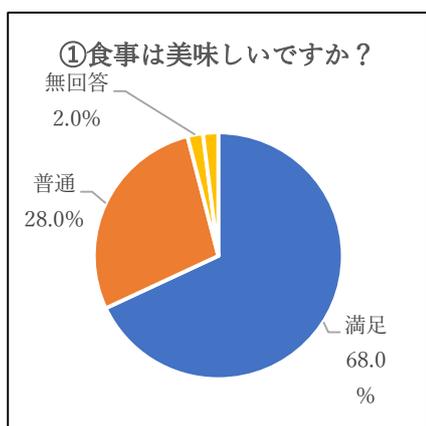
(ユニット型)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	介護度平均
R2年度	0	0	3,857	4,356	1,761	9,974	3.89
R1年度	0	0	3,595	5,249	1,502	10,348	3.85

◇ 特養 満足度調査 (令和3年3月実施)

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

※下記5項目について、1. 満足 2. 普通 3. 不満 4. 無回答 の4段階評価にて回答してもらった



医療・看護部門

(1) 施設内の感染を予防するについて

今年度は、新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、感染症情報に応じて多職種と共に予防対策を講じた。昨年度に引き続き、家族面会の制限やボランティア活動を休止し、外部からの人の出入りを遮断した。入園者の生活では、対面で食事を摂らないような配席の工夫や、手指消毒、可能な限りのマスク着用、検温の実施をした。職員に関しても、休憩時間の密は避ける、検温、手指消毒、マスク着用等の基本的な感染予防対策を徹底し、また、本人はもとより、家族の体調不良や発熱者が出た場合も速やかに報告してもらい、出勤を見合わせる等の対策をとった。

3月には、感染管理認定看護師によるサイドビジットを受け、「施設に持ち込まれない工夫、入所者に対する工対策、職員に対する対策、物品確保状況、疑わしき患者の対応、集団発生時対応」について指導・助言を受けた。

(2) 穏やかな終末期を過ごせるような看取り介護について

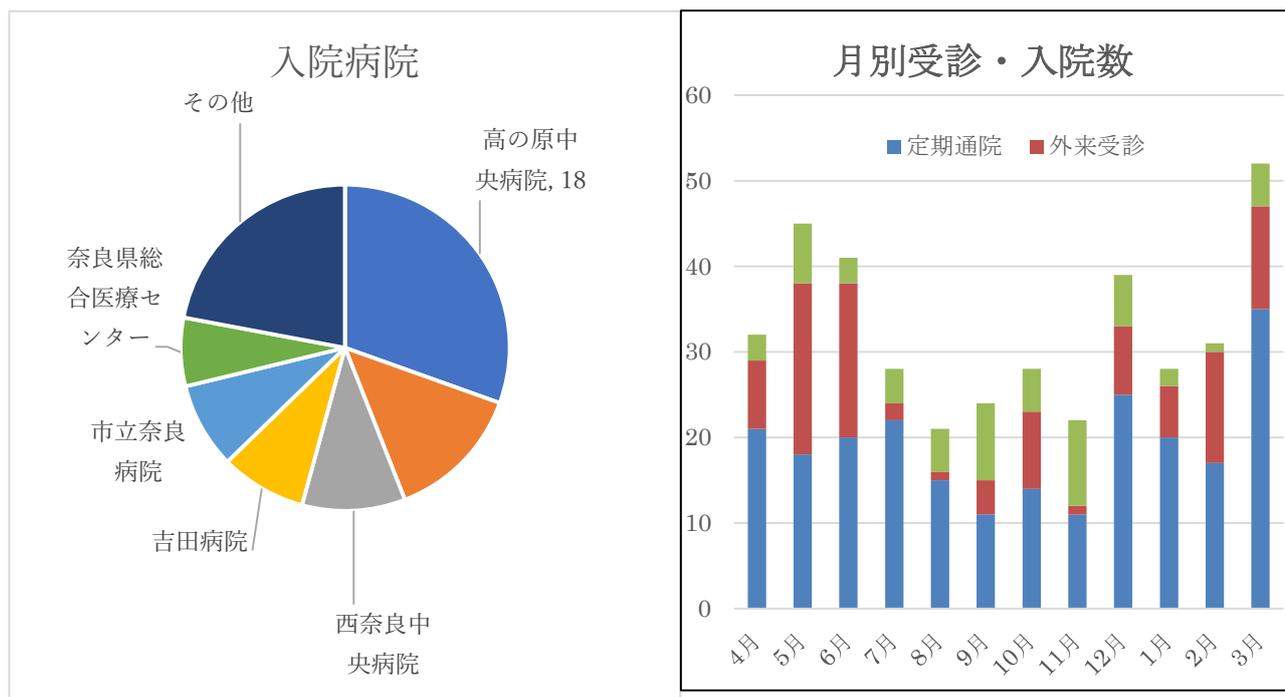
園で最期を迎えた方は5名だった。看取り期には、納得できるようご家族様と職員と話し合いを重ねた。

(3) 職員の職場環境を整えるについて

ストレスチェックは107人が受検し、希望者には産業医の面接を実施した。健康診断は全員が受けた。

(4) 感染症予防・看取り介護等の研修について

コロナウイルス流行のため研修という形式がとれなかったが、書面報告として情報の共有をした。



○個別機能訓練部門

今年度は新型コロナウイルスの流行により理学療法士の指導は一時休止となっている。よって定期的な理学療法士の指導、評価を受けることが出来なかった。

個別機能訓練計画書は他職種と情報を共有しながら連携し作成することができた。また、計画書に基づき感染症対策をとりながら訓練の実施を行い、身体機能の維持、減退予防に努めた。

機能訓練状況（介護職員担当の生活の中での活動を含む 令和3年3月31日現在）

	既存 2F	既存 3F	ロータス和	ロータス悠
集団体操	11	17	13	12
歩行訓練	11	10	7	4
立位訓練	8	13	8	8
筋力増強訓練	12	10	8	7
体重移動訓練	0	3	0	3
離床	8	9	5	3
車椅子自操	1	3	3	4
関節可動域訓練	7	15	5	5
ポジショニング	8	11	6	7
滑車	設置なし	5	設置なし	設置なし

○栄養管理部門

(1) 栄養ケア・マネジメントの実施について

多職種協働で個々の利用者の状況に対応した個別対応の食事提供ができるよう取り組んできた。カンファレンスにも参加し、利用者全員に栄養ケア・マネジメントを実施できた。食事療法

が必要な方には療養食の提供も行っている。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組んで行きたい。

(2) 家庭的で季節感のある食事や行事食の提供について

誕生食、好み食、選択食、行事食等の実施により、日常生活に変化や楽しみのある食事の提供を行うことができた。好評であり今後も継続して行きたい。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、おやつレクリエーションを中止し感染症対策を行った。状況を見ながら再開できるよう検討を行って行きたい。

(3) 食事内容の向上について

喫食状況を見せて頂いたり、利用者や職員と会話をする中で嗜好や嚥下状態等を把握し、献立や調理、盛付等、食事内容に反映できるよう取り組んできた。

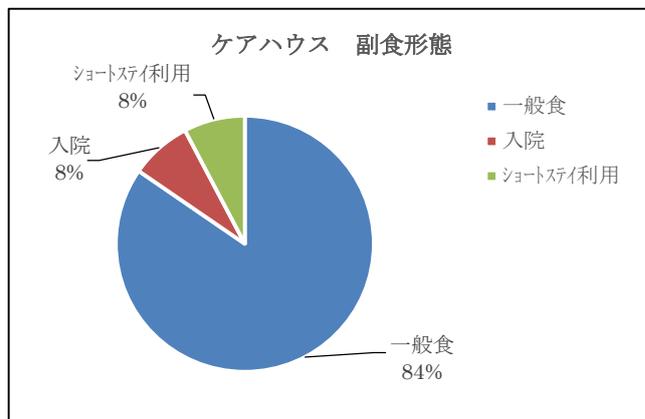
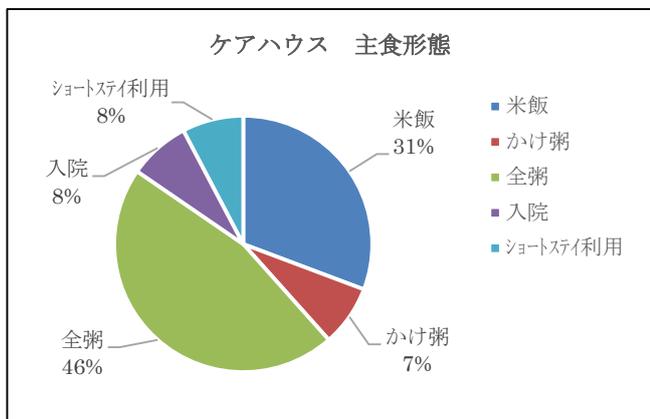
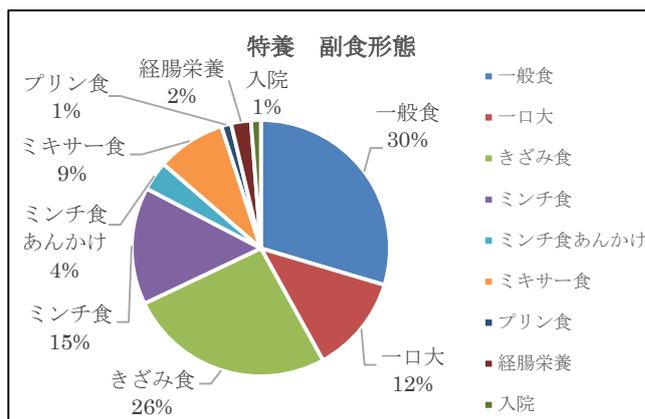
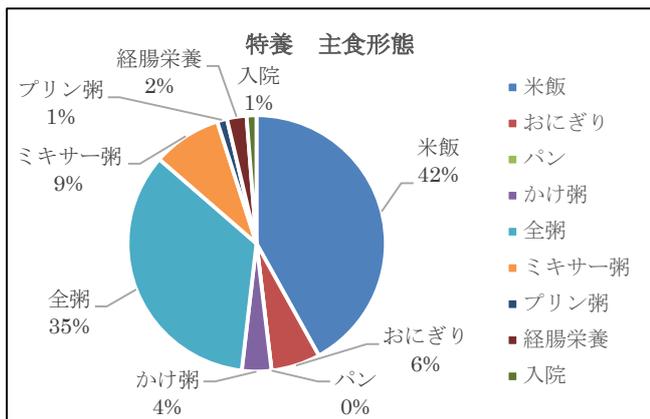
(4) 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供について

大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。食中毒予防の施設内研修を今年度は書面研修で行った。感染症対策と同時に食中毒予防についても施設全体で取り組みを行うことができた。

(5) 非常災害時の備蓄について

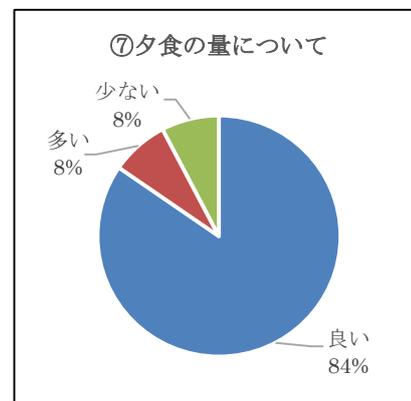
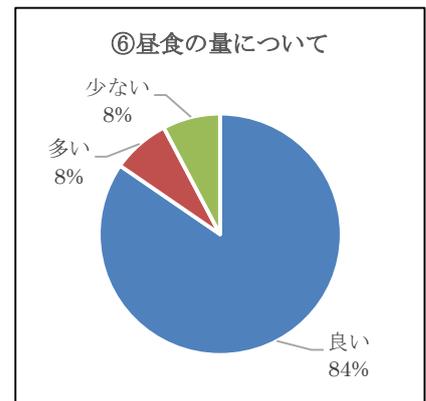
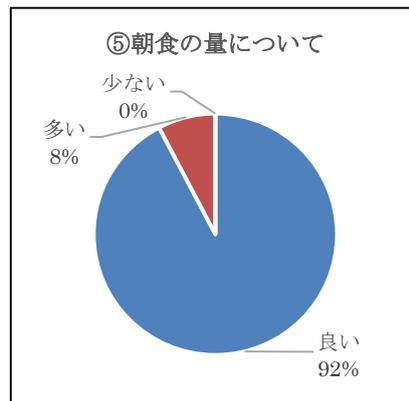
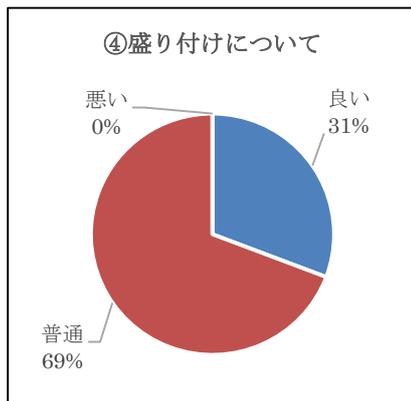
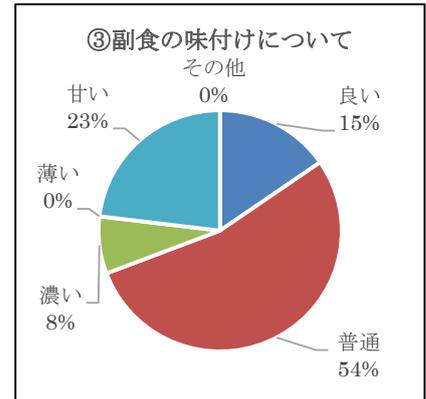
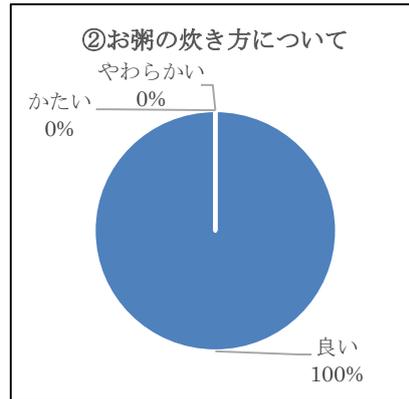
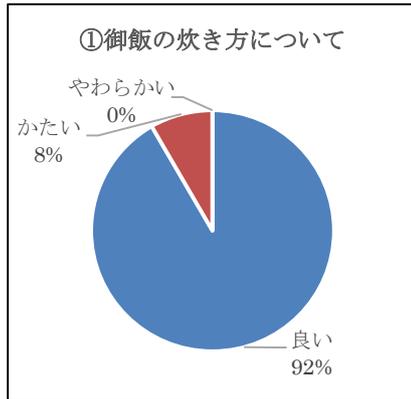
非常食を使い捨て容器と共に利用者3日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。又、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

食事形態（令和3年3月31日夕食現在）



◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果

令和3年1月実施 回答率100%



⑧今後希望される料理

- ・寿司 ・すき焼き ・たけのこ ・納豆
- ・ぶり大根 ・キャベツとかまぼこの酢の物
- ・野菜ときのこの煮物 ・高野豆腐
- ・サンドイッチと温かいスープとポンジュースの昼食
- ・フライ系の物をもう少し多く
- ・野菜の沢山入ったポテトサラダ

⑨食事についての満足度を100点満点で評価 平均80.9点

⑩その他、食事に関する御意見、御希望（抜粋）

- ・ぶり大根がおいしかった。 ・酢の物が少し酸っぱすぎると思います。
- ・酢の物の種類を広げて欲しい。
- ・食材料高騰の折、色々御苦労もあろうかと感謝しつつ頂いています。
- ・朝早くから夜遅くまで皆様御苦労様です。ありがとうございます。
- ・いつも美味しい食事をありがとうございます。

○ボランティア部門

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ボランティア活動を中止せざるを得なかった。今年度も感染の状況によるが、落ち着けばボランティアの受け入れを再開していきたい。

ならやま園ショートステイサービス（定員 16 名）

- (1) 職員の介護の資質、サービスの質の向上を目指す。

令和 2 年度は、前年度に比べて延べ利用者数は増加したが、延べ利用日数は減少に転じた。その要因の一つとして、利用者の重度高齢化により、長期的に利用できる方が減少していることが考えられる。

利用者の重度高齢化に伴い、介護職員に求められるスキル（専門性）が多様化、複雑化していく中、特養併設であることの専門性を生かし、安心して利用していただける環境、サービスを提供していくことを心がけている。

現場職員の人材（定着率）も安定しており、介護福祉士など有資格者の割合も安定している。引き続き利用者個々のニーズに柔軟に対応できるスキルアップを目指していきたい。

- (2) 日程調整を迅速に行い、より多くの方に利用いただけるよう努める。

ショートステイの予約については出来る限り、希望に添える形で対応をしている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行、拡大に伴い、利用を一時的にお断りすることがあった。令和 3 年度においても、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大も懸念されるため、施設内外、各事業所や行政、機関と連携、情報共有に努めると同時に、フロア内の密の回避など感染症の予防に努めていきたい。

- (3) 空きベッドを利用し、緊急の受け入れにも積極的に対応していく。

空きベッドを積極的に利用し、各部署と連携を取りながら緊急の受け入れにも対応してきた。独居の方や高齢者夫婦、家族の介護負担軽減など、在宅での生活が困難となるケースも多く、各事業所や家族とも連携をとり、出来る限り受け入れできる体制を整えた。

- (4) 家族、関係機関、職員と密に連携を取り、利用者の情報の共有を図る。

家族や各事業所、関係各機関とこまめに連携をとり、利用者が安心して利用できる生活空間の提供に努めてきた。利用者や家族からの意見や要望には迅速に対応するよう心掛けた。

利用者の急変時等には、速やかに関係機関、家族と連携を取り迅速な対応を心がけた。利用者の体調の変化に早期に気づけるよう、こまめに利用者の状態を観察、記録し、職員間で共有しながら今後も利用者の安全で安心できる生活を支援していきたい。

- (5) 新規利用者獲得の為、地域の方や各事業所へ積極的にアプローチしていく。

引き続き、外部居宅介護支援事業所などへの積極的な営業活動を進めながら、新規利用者の獲得に努めていきたい。同時に、日々の小さな関りや対応を 1 つ 1 つ確実に重ねていくことで、利用者、家族との関係構築、サービスの質の向上に努めていきたい。

- (6) 利用者との豊かな関わりを持ち、「また来たい」「行きたい」と思われるショートステイを提供する。

利用者一人一人との関りやコミュニケーションを大切にしながら、日常生活の中で楽しみや刺激を感じていただけるような余暇を常に心がけている。令和 2 年に入ってから、新型コロナウイルス

ス感染症が拡大していく中、施設内においても積極的なボランティア活動や行事、散歩や喫茶なども開催できず、利用者には不便、迷惑をかけている。そんな中でも「密を避けつつ」明るく前向きに楽しめる余暇の提供を今後も考えていきたい。

	延利用日数	稼働率	延利用数	身障	介護度別利用日数（日）						
					要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R2年度	4917日	84.2%	484人	0日	0	2	226	1268	1505	950	967
R1年度	5125日	92.2%	473人	0日	0	0	299	1406	1185	1551	687
増減	-208日	-8%	+11人	±0	±0	+2	-37	-138	+320	-601	+280

ならやま園デイサービスセンター（定員 39名）

(1) 職員が提供する介護から利用者へして頂く介護へ

各テーブルにポットやコップを設置し利用者間でお茶を注ぎ合って頂く事は利用者間においてもかなり浸透してきている。その事で新たな会話が生まれ、利用者同士が活発にコミュニケーションをとる事によって、当デイサービスが社会交流の場となっている。

(2) 選択出来る環境を増やし利用者満足へ繋げる

4年前から実施しており様々な形で利用者へ提供している。雑誌や問題集各種、塗絵や手先を使うもの等種類は増えてきており利用者を選んでいただく項目は増えてきている。特に今年度は、制作活動の見直しに重きを置き、自身で制作した物を持ち帰って頂き、家族にも園での活動の様子が分かるような工夫を行っている。

(3) 外部居宅のケースを増やすべく、営業活動を強化について。

今年度もならやま園以外の居宅からの紹介が全体の半分以上を占めている。リハビリと入浴はデイサービスを利用する目的の大半を占めおり、当デイサービスのセールスポイントとなっている。今後もケアマネジャーへのアプローチをして行きたいと考える。

(4) 新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

昨年からのコロナ禍における感染予防策として、利用者並びに職員のマスク着用の徹底とこまめに手洗いうがいを行う事をはじめ、デイルームでの飛沫感染予防として、1テーブルあたり2~3名で座る事と各テーブルの中央でビニールシートを吊り下げる対応を取っている。又、密を避ける為、昼食時から6名の利用者をデイルームから喫茶コーナーへ誘導している。

年度別	要介護度別利用者数							合計	営業日	平均/日
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	身障			
R2年度	721	1,553	2,420	1,667	1,036	502	0	7,899	307	25.72
R1年度	800	2,081	2,690	1,411	1,439	397	0	8,818	307	28.72
増減	-79	-528	-270	+256	-403	+105	0	-919	0	-3

ならやま園ホームヘルプステーション

(1) 事業実績

月平均 84 名の利用があり今年度の新規利用者は年間通して 36 名あり可能な限りは受け入れを行った。新型コロナウイルスに対しての予防対策に留意しながらも、外部事業者、奈良市地域包括支援センターからの依頼も積極的に受けてきた。

(2) 利用者のニーズに合ったサービス提供

登録ヘルパーからは利用者の心身の変化についてよく報告がなされ受診、入院に繋がるケースもあった。ヘルパー間の連絡体制も整えて、ケアについて情報共有を図りサービス提供にあたった。

(3) 登録ヘルパーの確保

サービス提供責任者 3 名と非常勤ヘルパー 10 名で事業を実施したが定着率はよく離職率も少ないがヘルパーの年齢層が上がっており、今後幅広いニーズに応えるために若い世代登録ヘルパーの増員を希望している。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R2 年度	5242 件	2203 件	7445 件
R1 年度	6367 件	1544 件	7911 件
増減	-1125 件	+659 件	-466 件

ならやま園居宅介護支援事業所

令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ケアマネの業務の縮小や制限をせざるを得ない年度であった。ケアマネが移動により 1 名人数が増え、10 月に居宅の事務所も引っ越しを行い新たに 5 名でのスタートとなった。今後もケース相談を積極的に行い、地域に必要とされる居宅介護支援事業所を目指していく。

(1) 地域包括支援センターとの連携と業務について

介護予防ケアマネジメントに関しては北部、平城、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、二名・若草の 8 包括との給付管理を伴う連携を行った。給付管理には至らないが必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。活動圏域は奈良市全域に広げて業務を行っている。

(2) 居宅介護支援事業所としてのレベルアップ

継続して週 1 回、ケアマネジャー会議を行っている。令和元年度は 48 回開催し、情報共有等に努めた。また、平城地域の他居宅介護支援事業所との勉強会を年 2 回行い、情報交換を行った。

(3) 地域活動の参加

地域ニーズを把握出来るように担当者を決めて継続的に地域活動に参加していたがコロナウイルス感染症拡大の為に令和 2 年度においては定期参加（月 1 回程度）が 3 ヶ所、不定期参加（年 1~2 回）が 2 ヶ所、全てのサロン活動が中止となっている。

(4) 介護ケアマネジメントと適正化について

年々、相談内容が多種多様化しており、サービス調整も複雑化してきている。ケアマネジメント

業務を行う上で、公正かつ中立なサービスの選択を行えるように、利用者本位および自立支援を意識しながら支援にあたっている。

(5) ケアプラン作成件数と認定調査について

ケアマネジメントの質の向上の一つとして、奈良市委託事業である認定調査を行っているがコロナウイルスの為、感染拡大状況を見ながら認定調査を実施する対応を行った。

利用者延件数（ケアプラン作成）

	予防	要介護	計
R2年度	602	1743	2345
R1年度	562	1756	2318
増減	+40	-13	+27

認定委託件数（市町村委託総数）

R2年度	50
R1年度	96
増減	-46

ケアハウスニューライフならやま（定員 15 名）

令和2年度はコロナウイルス感染対策に重視し生活援助を行った。そのため入居者様には、精神的ストレス及び生活に不安を抱かれる場面が多くみられ、相談を受けることを中心に対応してきた。入居者の個々の思いを尊重し、精神面・身体面の様子を重視しながら不安なく安心して生活して頂ける事を願い、接するように心がけてきた。しかし、介護保険を利用される方も増えてきており、自立した生活に少し不安を抱かれる方も増えてきている。今後もケアハウスでの生活に不安なく過ごして頂ける様、個々との話し合いの場を大切に、家族様、介護支援専門員との連携を取り支援を行っていく。

介護度（令和 2.3.31 現在）

	自立	要支援	介護 1	介護 2	介護 3～5	合計
男性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
女性	1名	5名	4名	2名	2名	14名
小計	1名	5名	4名	2名	2名	14名

□委員会活動

(研修委員会)

コロナ禍の中での集合研修は難しく書面での研修となった。資料を配るだけではなく、アンケートや疑問などを募り、職員に何度もフィードバックを行い知識の習得に努めた。対面をしての研修ではなかったが、研修委員のメンバーと職員のコミュニケーションが取れる良い機会になった様に思う。今後は IT を利用しての研修などを積極的に取り入れていきたい。状況が落ち着けば、集合研修も行っていきたい。

(感染症委員会)

今期は新型コロナウイルスを施設に持ち込まないために、利用者、職員を守るために、細心の注意を行ってきた。特に職員の体調管理、生活の中で自粛を促すなど、職員からの感染が起こらないように啓発をしてきた。また職員の家族の通う職場や学校などで、感染者や濃厚接触者が出た場合など早めに対応を行ってきた。緊張感の絶えない毎日であったが、感染者を出すことなく過ごせている。

3月9日に「奈良県 新型コロナウイルス感染症対策強化事業」の一環として、「社会福祉・介護施設クラスター発生防止事業」の実施について、感染管理認定看護師の方2名のサイトビジットが行われた。感染症が発生しないように、発生してしまった場合のゾーニングの方法など、実践的な感染予防を学ぶことができた。学んだことを活かし、現場の職員とともに感染予防に取り込める良い機会となった。

(危機管理委員会)

コロナ禍の中で年の2回の避難訓練、地震・風水害・土砂災害の避難訓練を書面で行った。また法人で作成した自然災害時のBCP（事業継続計画）を各事業所、フロアで共有した。

ヒヤリハット、インシデント、アクシデントリポートを毎月、振り返り事故の予防に努めた。

事故予防、安全対策、交通安全など書面での研修を行った。コロナウイルス感染症の状況が落ち着けば、効果的な研修を行っていきたい。

□令和元年度 実習生受け入れ状況

○令和元年度実習生受け入れ状況

学校名等	人数	期 間
介護労働安定センター	2名	令和 3.1.20 ～ 1.21 (2日間)
	2名	令和 3.1.25 ～ 1.26 (2日間)

特別養護老人ホーム平城園 (定員 70名)

ユニット型 特別養護老人ホーム平城園 (定員 40名)

令和2年度はコロナウイルスとの闘いの年となった。感染症対策が長期化する中、どうすれば、利用者に生き甲斐をもって、安らかに暮らしていただけるのか。どうすれば、家族の皆様に安心頂けるのか。そのようなことを、自問し続けた。

特養では、利用者と家族の面会が出来なくなったが、オンライン面会という形で繋がりを維持した。家族や地域の皆様に、施設内での出来事を、会ってお伝えすることが出来なくなったが、HPのブログという形で配信することができた。

十分とは言えないまでも、コロナウイルスという脅威に対して、自分たちが変化をして少しずつでも対応できたことは、ひとつの成果である。これからも、福祉とは何かを問い続け、利用者、家族の皆様、地域の皆様に認められるよう、職員一同、挑戦を続けて参る。

○介護部門

・従来型

1) 体制づくり

新型コロナウイルス感染症の影響で、各委員会会議が開催できないときがあったが、職員への情報の発信、情報共有を図り活動を継続した。特に、感染症対策については、日々感染拡大する中、情報の収集、感染対策の検討を行い、職員の感染症への意識を常に高く持ち、感染症対策に取り組んでいけるよう情報の発信、感染症対策の実施を行い、利用者が安全に安心した楽しみのある生活を送って頂けるように平城園全体で取り組んだ。

2) 人材育成体制の充実、雇用の安定化

感染症対策の為、園内研修の実施をすることができない状態であったが、リモート等での研修を実施できるように環境の整備などを整え、今後リモート等での研修を取り入れつつ研修委員会と協力し実施していく。

雇用の安定化については、退職者はいたものの新規職員の雇用を積極的に行い、新人職員の指導を行った。今年度は専門学校からの実習生の受け入れが困難であり、新卒採用に繋げることができなかったが、今後は感染対策を実施しながら、実習生の受け入れや、就職フェアへの参加などを行い、雇用の安定化に繋げていく。

3) 大規模災害に備えた防災、減災計画の実施

感染症対策を行いつつできる範囲で訓練を実施した。また、大規模災害に備えた防災計画の見直しを行うとともに、自然災害、感染症発生時のBCP(事業継続計画)を検討、作成を行った。今後はこの計画が実施できるように訓練を実施し、計画の見直しを行って行く。

4) プライバシーの確保と安全性の確保

居室の造りが、以前の4人部屋から、個室、2人部屋となり、利用者個々のプライバシーの確保はできた。その反面、利用者の見守りができにくい環境となったが、離床センサーや衝撃吸収マット等の活用、居室の変更等を行い、事故防止に努めた。

5) ボランティアの導入

新型コロナウイルス感染症の対応で、ボランティアの受け入れを全て中止した。感染症対策で慰問、フロア合同での行事は全て中止となり、利用者の楽しみが減ってしまった。その中でも、感染症対策を行いながら、フロアごとに季節の行事を行ったり、映像でのお花見を実施したりと少しでも利用者を楽しみを持っていただける様に工夫して取組み、利用者の笑顔が見られた。今後も感染症対策を実施しながら少しでも利用者を楽しみを感じて頂けるような取組みを検討していく。

・ユニット型

1) ユニットケアの理解と実践

感染症防止対策下にあり、職員が集まったの勉強会は行えなかったが、ユニット内の少数での話し合いや、個々への説明を通し、理解を深めるよう取り組んだ。24時間単位での生活の流れ、ケアを視覚化することで、概ね、ケアの統一を図ることはできた。

好みや背景は家族や本人からの情報を得、また、日常の様子、心身状態の把握に努めた。しかし、

まだまだ理解に至らずケアの迅速な見直し、方向性の転換に時間を要することがあり、今後の課題である。

見守り支援システム「眠り SCAN」は、事故のリスク軽減に活用できている。しかし、健康状態に関するデータ分析までは取り組めておらず、個々の状態把握と生活やケアの質の向上の為、機能を活かしたい。

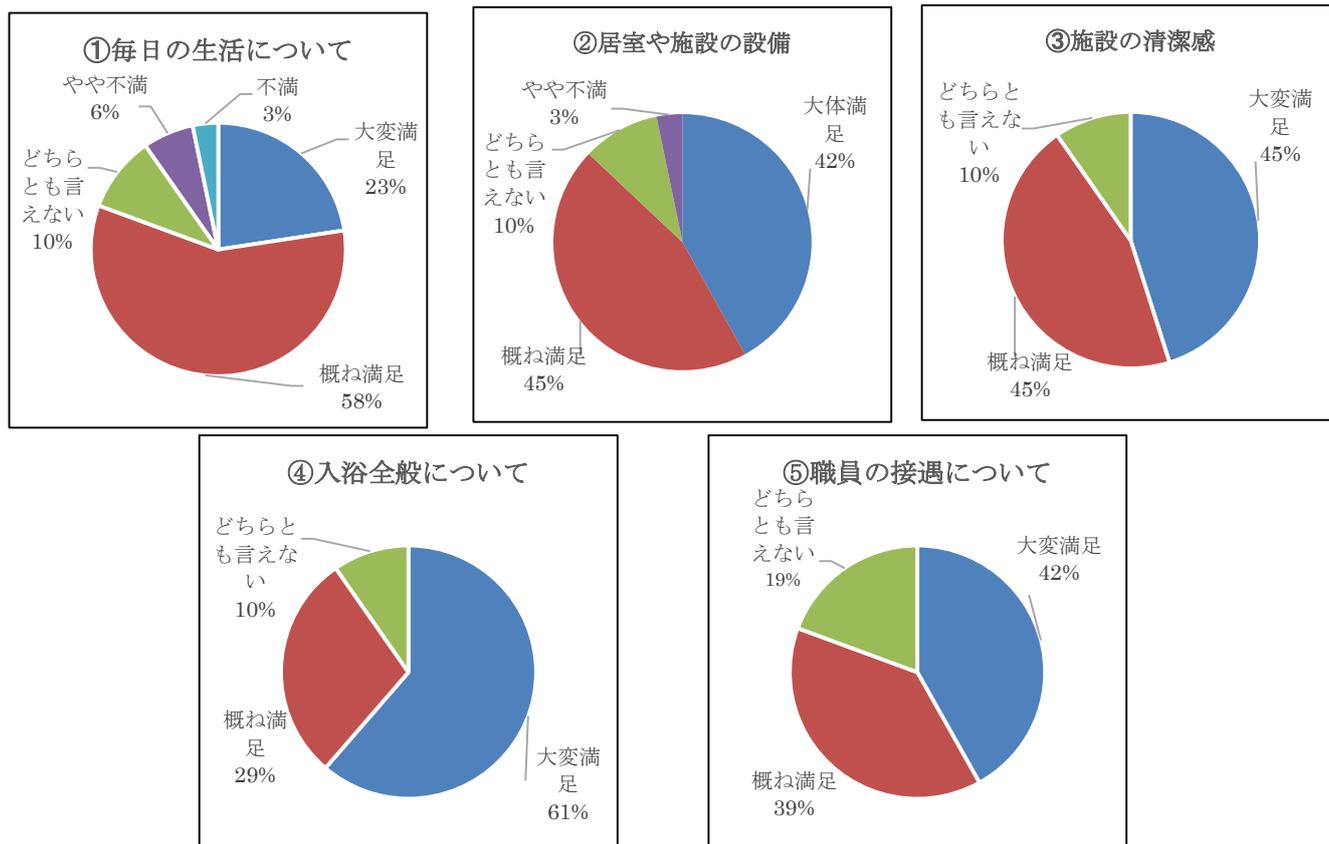
2) 生活環境づくり

共有部は部分的に、家庭的な設えを意識した環境づくりに近づけることができた。装飾品によっては、それを持ち去るだけでなく、口に入れてしまう方もおられ、安全な設え方を考えなければならず、今後も引き続き、季節感、家庭的な雰囲気のある環境づくりに取り組みたい。各居室の、その人らしい空間は個人差があった。家族の理解と協力を得ながら進めることが重要な為、相談しながら進めていきたい。

◇ 特養 満足度調査

調査目的：利用者の生活向上、職員の意識向上のため利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くため利用者にアンケートを実施した。

※下記5項目について、1. 大変満足 2. 概ね満足 3. どちらとも言えない 4. やや不満 5. 大いに不満の5段階評価にて回答してもらった。(令和3年3月実施)



アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

〈毎日の生活について〉

・退屈 ・体が満足に動かない ・おもしろくない

〈居室や施設の設備について〉

・個室がよい ・狭いながらも使いやすい ・居室が狭い

〈施設の清潔感〉

・きれいにしてくれてうれしい ・よくしてくれる

〈入浴全般について〉

・慣れている職員が対応してくれる ・風呂が待ち遠しい ・毎日入浴したい

〈職員の接遇について〉

・優しい ・よくやってくれている ・色々な人がいます

〈その他〉

・友達もいて楽しい ・家族と面会したい

○介護サービス支援室

平成31年1月に新施設へ移行し、令和2年度は安定稼働、地域への認知度のアップを目指すべき1年だった。しかしながら、昨年度末より新型コロナウイルスの流行が始まり、利用者、職員の安全を第一に考え、新規入園者の受け入れを世情に合わせて一時中止するなど、対応に苦慮した1年だった。

1) 運営基盤の安定を目指し、稼働率の維持、向上をはかる

運営基盤の安定を図るため、稼働率について、事業単位、月度単位で管理し、常に数値を意識した。4月～6月までは、新型コロナウイルス感染拡大を受け、新規入所者の受け入れを中止した。その影響もあり、稼働率については、ユニット型は昨年稼働率を維持できたものの、従来型については、若干ではあるが下回った。

2) 利用者の安心安全な生活を確固なものにするため、現場の声を活かし、必要時には各種マニュアルの作成、変更を実施する。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、利用者に安全に過ごして頂くことを第一にフロア間の職員、利用者の交流の中止や、園内で万一新型コロナウイルスが発生した場合のゾーニングのシミュレーションなど、新型コロナウイルスの感染防止に注力し、適時マニュアル変更などを実施した。

3) 未来へつながる人材育成のため、主に新型コロナウイルス等の感染防止の研修充実や適正な人員配置を検討した。人材確保については、奈良県福祉介護認証制度等も利用し、新規入職者の確保に努めた。

①在園年数

・従来型

在園年数 (R3. 3. 31 現在)							単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年以上	合計
男性	3	5	3	1	1	0	13
女性	11	14	13	4	8	1	51
合計	14	19	16	5	9	1	64
平均在所日数 ■男性 2年9ヵ月29日 (1029日) □女性 3年4ヵ月28日 (1243日) <u>平均 3年3ヵ月13日 (1198日)</u>							

・ユニット型

在園年数 (R3. 3. 31 現在)					単位：人
	1年未満	1年～ 2年未満	2年以上	合計	
男性	2	0	4	6	
女性	5	12	16	33	
合計	7	12	20	39	
平均在所日数 ■男性 1年5ヵ月27日 (542日) □女性 1年9ヵ月8日 (628日)					
<u>平均 1年8ヵ月10日 (615日)</u>					

②入園者年齢構成

・従来型

入所者年齢構成 (R3. 3. 31 現在)								単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合計
男性	0	0	3	2	3	4	2	14
女性	0	2	4	10	11	16	7	50
合計	0	2	7	12	14	20	9	64

・ユニット型

入所者年齢構成 (R2. 3. 31 現在)								単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合計
男性	0	1	0	0	2	1	2	6
女性	0	0	2	0	8	13	10	33
合計	0	1	2	0	10	14	12	39

・従来型

最低・最高年齢 (R3. 3. 31. 現在) 単位: 歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	77	95	85.8
女性	72	106	87.6

・ユニット型

最低・最高年齢 (R3. 3. 31. 現在) 単位: 歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	72	100	84.0
女性	78	100	91.9

入園者の状況

・従来型

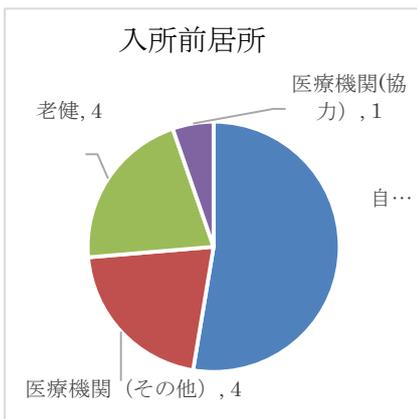
入退園の状況 (年間)		
	性別	年間合計数
新規入居者	男性	5名
	女性	14名
退園者	男性	7名
	女性	14名

・ユニット型

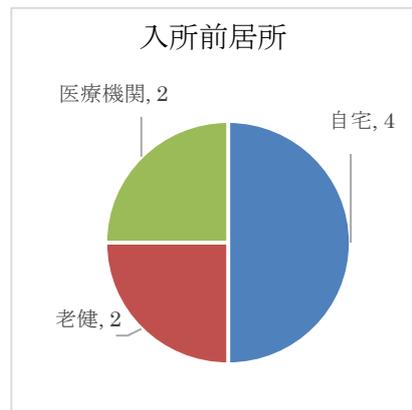
入退園の状況 (年間)		
	性別	年間合計数
新規入居者	男性	3名
	女性	5名
退園者	男性	1名
	女性	7名

入園前の状況

・従来型

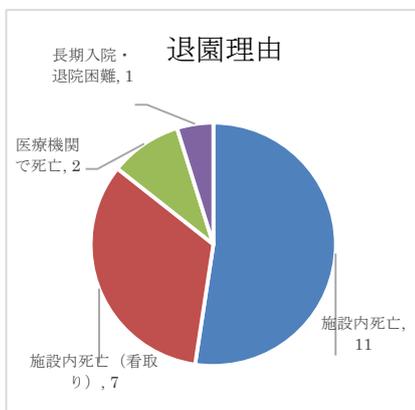


・ユニット型

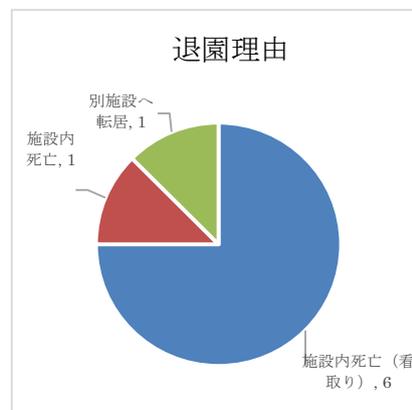


退園理由

・従来型



・ユニット型



③ 介護度別延べ人数

・従来型

入園者介護度別延べ人数 (R3年3月31日現在)							単位：人
年 度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	介護度平均
R2年度	0	0	11552	6841	5783	24176	3.76
R1年度	0	213	10661	7462	6393	24729	3.75

・ユニット型

入園者介護度別延べ人数 (R3年3月31日現在)							単位：人
年 度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	介護度平均
R2年度	0	209	4490	5089	3858	14170	3.89
R1年度	0	31	5862	5299	2916	14108	3.89

○看護部門

目標：利用者の人権を尊重し「安全・安心」「納得・信頼」のある看護を提供する。

1) 利用者の健康管理と異常の早期発見

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、日々の状態観察を行い利用者の変化を速やかに医師に報告、指示のもと健康保持に努めた。

基礎疾患を有する利用者が多く、一人が複数の診療科を受診するケースがある。医療機関への受診は(定期通院・検診レントゲンを含む)403件(前年度430件)、入院した利用者は27名(前年度39名)だった。(表1と表2)

2) 感染症の対策

本年度は新型コロナウイルスが世界的に流行し、奈良県においても感染の拡大が続いており、年間を通して感染症対策を徹底した。

令和2年2月より園内の立ち入りを制限し、家族の面会方法もガラス越し面会やWEB面会など流行状況に合わせた対応を実施する等、外部から施設内に持ち込まないための対策を徹底した。職員は通常時の手洗い手指消毒、マスクやフェイスシールド・ゴーグルの着用の徹底、体調管理に努め、職員はもとより、職員家族の体調にも留意し施設全体で感染症への意識を高め取り組んだ。

3) 利用者・家族に納得いただける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた利用者は21名(前年度24名)、うち看取り介護を受けられたのは13名だった(前年度15名)。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策により、面会の制限やオンライン面会に変更する等の対応をとる中、看取り期の利用者とその家族に対しては、十分な感染拡大防止対策を実施したうえで、家族との時間を静養室にて過ごしていただくことができた。

偲びのカンファレンスも例年通りに実施することが困難であったが、職員間で故人を偲び、ケアの振り返りを行い今後のケア向上に繋がるよう努めた。

4) 褥瘡発生予防の体制

3 か月毎の褥瘡ケア計画書の作成および評価を行い、多職種協働により褥瘡の発生を予防することができ、今年度は褥瘡の発生がなかった。

褥瘡に対する研修では褥瘡予防に対しての資料を配布し職員の認識を深めた。

5) 医療的ケア(喀痰吸引・胃ろう)の研修

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため奈良県における喀痰吸引等の基本研修が実施されなかったが、実務者研修終了した介護職員1名が園内で実地研修を終了し、認定特定行為業務者認定証を取得した。

医療的ケア推進対策委員会を定期開催し、医療と介護の連携を図り安全に実施することができた。

表1 <利用者の受診・入院状況>

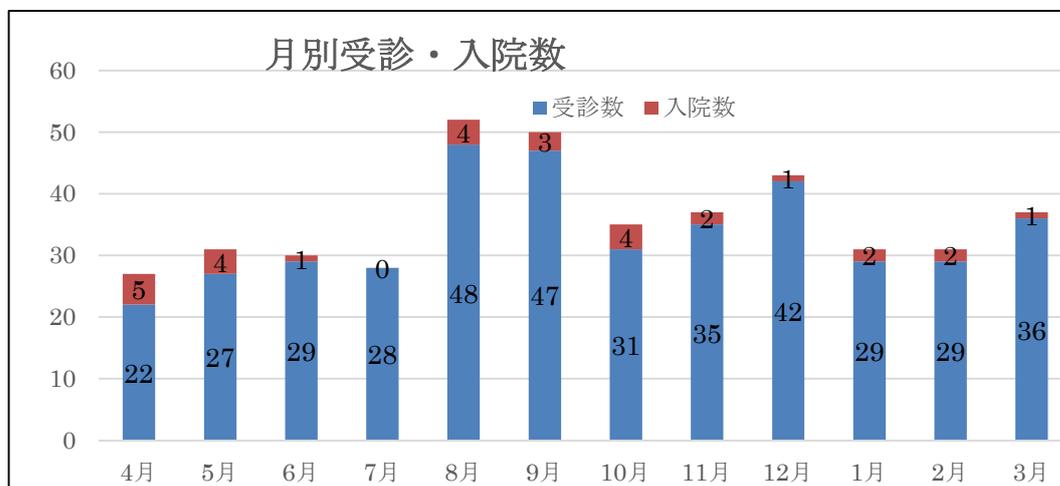
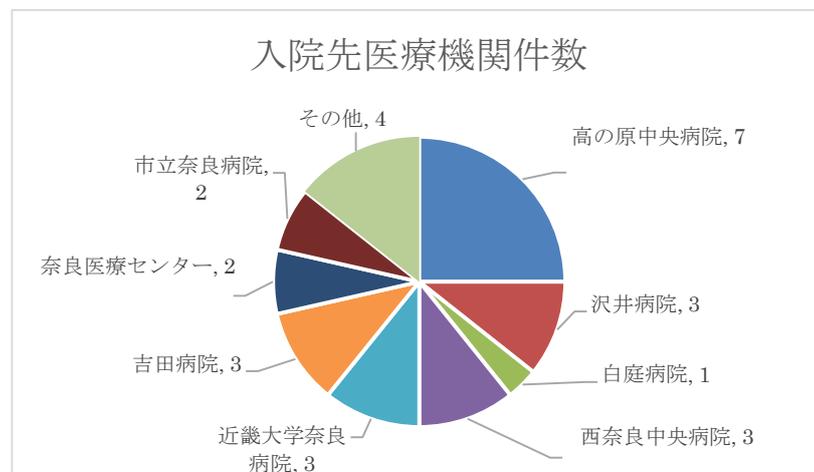


表2 <入院医療機関>



○個別機能訓練部門

1) 他職種と連携しながら入居者様一人ひとりの心身状況に合わせたフロア・個別機能訓練を実施

する。

同じ内容の生活リハビリを継続するのではなく、身体機能の評価を常に行い、適宜訓練の見直しを行いフロアに内容変更の依頼を行った。

- 2) 1回/月の理学療法士の指導を受け、個別機能訓練計画書を作成し、実施・評価する。

新型コロナウイルス感染症対策により、指導を受けることができない月もあったが、今年度より理学療法士が常駐したことで、身体機能の評価及び訓練方法を見直すことができた。

- 3) 離・臥床時の安楽な体位と良肢位の保持に努め、関節拘縮の悪化を防ぐ。

フロアの介護士と常に連携し、後日問題解決するのではなく、その場で問題を解決し、後日改めて再度検討を行い、簡便で短時間でできる良肢位でのポジショニングが定着するよう努めた。

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計（人）
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R2 年度	3871	1953	5824	1822	887	2709	8533
R1 年度	3079	1567	4646	1199	610	1809	6455

○栄養管理部門

- 1) 食べて頂ける食事の取り組みについて

旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。

- 2) 利用者に適した食事形態や個人の嗜好・療養状態に配慮し、心身の満足と栄養状態の改善に取り組めた。

- 3) 新型コロナウイルス感染症防止の為、回数は少なかったが、感染症防止策を徹底しながら、フロアごとにおやつパーティーなどニーズに合わせたサービスが実施できた。

- 4) 栄養ケアマネジメントの実施

介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に、カンファレンスの中で効果的な栄養ケアマネジメントが実施できた。経口維持食に関しては、条件に合う対象者がおらず、実施できていない。

- 5) 災害用の備蓄について

災害に備えて、3日分（9食分）の備蓄内容の見直し、備蓄食品の保管場所と使用方法を給食会議で確認し、多職種での情報共有を実施できた。

- 6) 配食サービスについて

高齢者に適した食材、栄養バランス、嗜好に合わせ、衛生面にも注意して作り、提供できた。

- 7) デイサービスについて

季節感のある食事や行事食を提供できた。

- 8) 事業内保育園について

子どもの年齢に合わせた食事の提供と安全でおいしい食事の提供ができた。

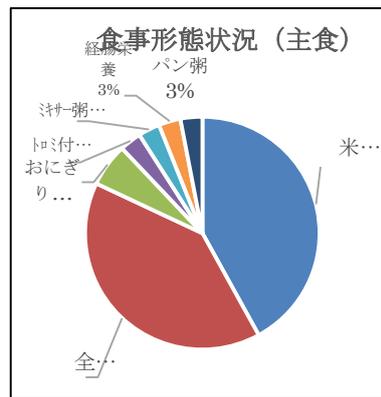
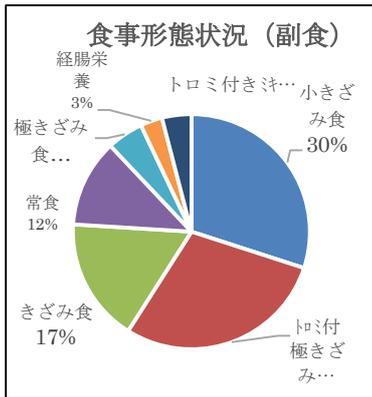
○療養食加算実施状況令和3年3月末時点人数(実人数 5人 4.9%)

療養食名	人数	療養食名	人数
糖尿病食	5人	貧血食	0人
脂質異常食	0人	心臓病食	0人

△経口維持加算 R2 年度実施状況

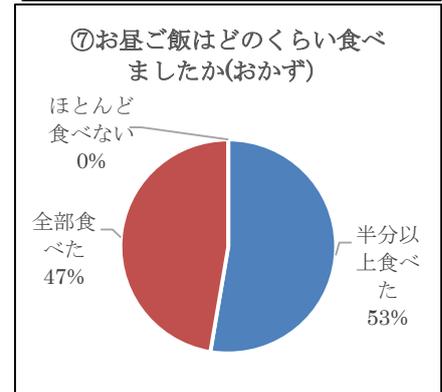
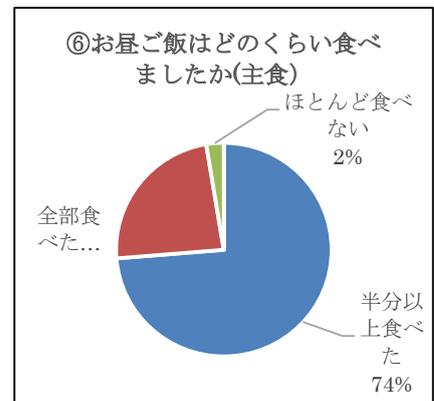
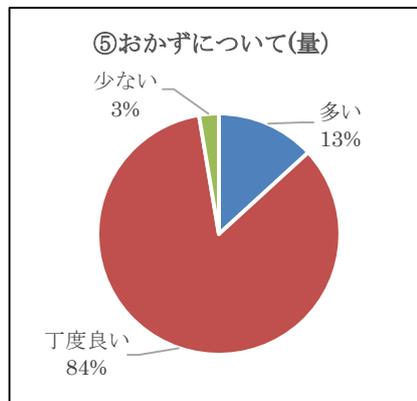
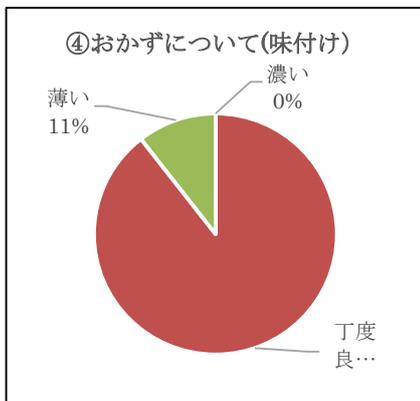
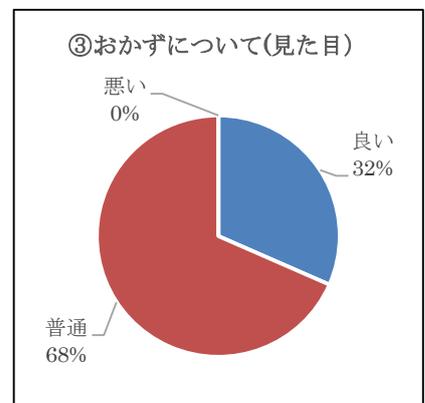
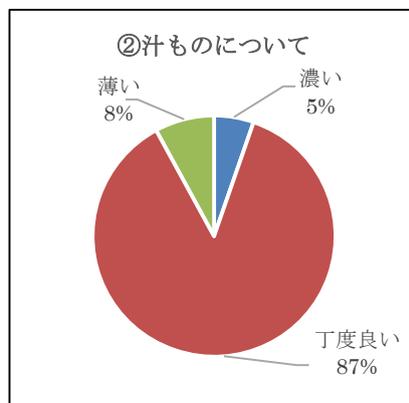
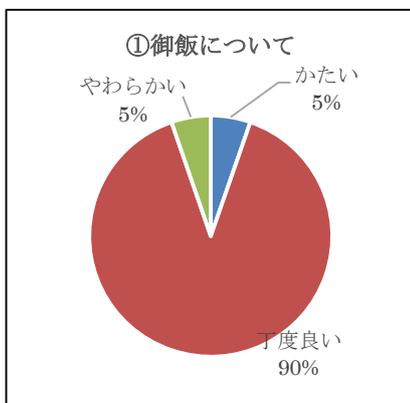
実施無し

<R2 年 3 月 食事形態状況(個別対応)>



◇特養満足度調査(嗜好調査)結果

R3 年 3 月実施 (令和 3 年 3 月実施)



*お食事についての希望 (抜粋)

- ・半分の量くらいがよい。
- ・コロッケを増やしてほしいです。
- ・たまには変わったおかずが食べたい。

*お食事についての希望 (抜粋)

- ・半分の量くらいがよい。
- ・コロッケを増やしてほしいです。

- ・夕飯のおかゆの量が多いです。
- ・おかずは味付けが濃い日もあったり薄い日もあったりします。
- ・麺類を増やしてほしい（うどん、そば、焼きそば等）。
- ・おかずはできたらもう少し多い方が良いです。

○ボランティア部門

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアの受け入れを再開することや外部からの慰問等もすべて中止した。感染対策を実施した上で職員が居室を訪問し、飲み物の提供、傾聴の時間を設ける活動は個別に実施し利用者に喜んでいただくことができた。今後はコロナ禍でも利用者を楽しんでいただける活動を実施していく。

奈良デイサービスセンター（定員 25 名）

事業再開後、新規利用者も徐々に増え、令和 3 年 2 月 1 日から定員を 20 名から 25 名へ変更することができた。

1) 自立支援に基づいたプログラムについて

作業療法士が考案した上肢・下肢・手先等、生活動作で必要な筋力にアプローチする体操を 1 日に 6 回行い体を動かす機会を作った。食事の配膳・下膳・洗い物・洗濯干し・たたみ等、生活に必要な動作を、お手伝いとして利用者にして頂ける環境を整えた。現在では役割として積極的に参加する利用者が増えている。

2) 余暇活動について

同法人の登美ヶ丘マミーズ保育園から依頼を受け、園児に手作りおもちゃを作成しプレゼントしている。ご利用者男女問わず、「子供たちの為なら」と日に日に参加される利用者も増えている。感染症対策から園児に直接渡しに行く事は出来ないが、子供達から届く写真付きメッセージを見て大変喜ばれている。

3) 職員の介護技術向上について

「いかに手伝わず利用者にして頂くか」その為に、利用者の ADL を把握した上での必要な支援をミーティングで共有し、環境面も含め都度統一した支援を行った。

延利用人数

年度	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	営業日数	平均/日
R2 年度	541	977	1339	420	477	0	3754	299	12.55
R1 年度	115	224	321	31	76	0	767	103	7.44

※令和 1 年度は R1 年 11 月～令和 2 年 3 月迄

平城園ホームヘルプステーション

1) 利用者のニーズに添い、満足度を向上させ利用者確保に努める。

利用者のニーズに添い、心のこもった誠意ある対応で、利用者一人一人に寄り添う支援ができた。

2) 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を深め、質の高い介護サービスを提供する。

感染症対策にて介護支援専門員、地域包括支援センターとの連携を深め、ヘルパー間での情報共有

とケアの統一に努めた。本年度は感染症対策でヘルパー会議を実施することができなかったが、メール等で支援時の情報共有を図り、研修育成の場を設け介護知識と技術の向上に努める。

3) 登録ヘルパーの人材確保に努める。

登録ヘルパーは年間を通じて募集をしたが本年度は採用につながらなかったが、令和3年4月より2名の登録ヘルパーを増員することができ、サービス提供責任者3名と登録ヘルパー16名体制となった。引き続き登録ヘルパーの人材確保に努める。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R2年度	6173件	2593件	8766件
R1年度	7294件	2006件	9300件
増減	-1121件	587件	-534件

※障害者総合支援事業2件

平城園ショートステイサービス（定員10名）

平成31年1月に従来型にショートステイを10床新設。ユニット型については空床利用を開始。利用者の在宅生活継続に寄与できるよう、事業の認知度アップをはかり、安定的に稼働できるよう取り組むべき1年だったが、昨年度末より新型コロナウイルスの流行が始まり、既存入園者の安全を考慮し、新規利用者や受け入れを中止する等、利用者、家族、担当ケアマネジャーに迷惑をおかけする1年となった。

1) 地域の方やケアマネジャーへのPRを積極的に実施し、新規利用者を獲得する。

新規利用者獲得のため、地域の方やケアマネジャーへPRを実施し、新規利用の希望があり、新たな利用者も受け入れることが出来たが、新型コロナウイルスの流行に伴い、利用者の受け入れが困難な時期（4月～6月度）もあり迷惑をかけることになった。

2) 新規利用者の獲得と合わせて既存利用者に定期的な利用を頂き安定稼働を目指す。

既存利用者については、定期的に利用頂き、特養入所へつながるケースが多くみられた。3月度については、短期入所を感染症防止の観点から受け入れを中止し、希望者には、月単位で利用頂く等の対応を行った。

3) フロアでの受け入れ体制や、利用者・家族の要望にお応えできるよう、ハード面、ソフト面でのシステムを構築する。

本年度、従来型とユニット型でショートステイの受け入れを実施した。想定していなかった事象が起こった場合などには、受け入れフロアや医務室などの関係各所と連携しながら、今年度は利用者の安全を最優先に考え対応した。利用者、家族から頂いた意見は常に現場にフィードバックし、より満足度の高いサービス提供を目指した。

	延利用 日数	利用者 数	介護度別利用日数						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R2年度	4079	242	0	0	99	640	2050	1274	16
R1年度	2722	53	0	3	78	371	1311	830	129

平城園在宅介護支援センター

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月に緊急事態宣言が発出されるなど、例年がない勤務体制を強いられる幕開けとなった。奈良市からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のための特例措置に基づいて毎月の訪問を控え、毎月の認定調査の受託に関しても同法人内での調査に限定して受託する等感染拡大の防止に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響はサービス利用にも大きく影響し、感染を懸念しデイサービスの利用を控える方が出られ、デイサービス以外のサービスを利用していない利用者についてはケアマネジャーの支援費を算定できない方が数名おられた。今回の新型コロナウイルス感染症は、これまでのインフルエンザやノロウイルスのような従来の感染症と違い、潜伏期間が長く、無症状や軽症の感染者もおりこれまでの対処法では感染を抑える事は困難であり、今後の業務の在り方を見直す機会にもつながった。

- 1) 事業所加算算定要件として設けられた、『他の法人が運営する居宅介護支援事業所と共同の事例検討会・研修会の開催』については、【平城地域ケアマネ勉強会】として3ヵ月に1回の頻度で開催してきたものが、今年度は感染症拡大防止の観点から12月と2月の2回のみ(書面による)開催となった。
- 2) 新年度になった4月より新しく1名のケアマネジャーが入職。6月より他部署へ異動予定のケアマネジャーからの引継ぎ業務を開始し5月末で完了。当該職員は奈良市の認定調査員資格が無く調査は出来なかった。
- 3) 予定されていた研修や勉強会は大半が中止となり、更新研修やネットワーク会議はリモートで開催・参画した。
- 4) 令和3年3月末に予定していた実習生受け入れは予定通り(3月29日～30日)に実施できた。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	介護	計
R2年度	546	1490	2036
R1年度	476	1542	2018
増減	+70	-55	+15

認定委託件数(奈良市委託)

R2年度計	25
R1年度計	83
増減	-58

ヴィラ秋篠

運営面においては、事業計画にも掲げここ数年の課題であった利用料金の値上げについて、入居者や家族に時間をかけて丁寧な説明と案内を行い、うまく導入することが出来た。経年劣化による備品や設備のメンテナンス費用が増加傾向にある中、収支バランスをうまく保ちながら安定した運営に努めたい。

また、活動全般的においては年度当初からコロナ禍の影響を受け続けた一年であった。実際には5月以降全ての数字において、前年度を下回る結果となった。

そんな中において感染状況をみながら利用者や家族には約2週間に一度のペースで、対応を見直し、規制と緩和をコントロールしながら以降の対応について細かなアナウンスを継続し、「安心できる住まい」としてこれまで以上に柔軟な対応につなぐことが出来たのは収穫であった。

しかし、新規入居者の獲得についてはこれまでにない苦戦を強いられることとなった。施設側としては、コロナ禍において喫緊2週間を地域で自由に生活をされていた方を集団生活に受け入れることのリスク、また本人だけでなく、転居や手続きに際し行動を共にされる家族等の関係者を含めた接触者が抱え

るリスクを考えた際、これまでよりも手続きが慎重になる場面が多かった。また、利用者や家族側としては入居をすることでコロナ禍での対応とは言え、集団生活という点から、面会や外出、本人との接触頻度が減ってしまうという事について想像以上の懸念を持っておられるケースが多く、契約直前になって破談となってしまうケースも散見された。

外出や面会、イベントなど入居者の生活面そのものに大きな影響を与える判断をせざるを得ないケースも多くあったが、「住まい」という点からできる限り柔軟な対応を行ったが、より完璧な感染対応という点とのバランスにおいては反比例する部分も多く、今後については課題が多く残った。

・月別入居契約数（契約戸：1日締め）

月	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	平均
契約戸	46	45	45	43	42	42	42	44	44	43	42	42	43.3
契約率	100	97.8	97.8	93.4	92.9	91.6	91.9	92.4	95.6	92.0	91.3	91.3	94

・年度内退去者 10名（男性2名 女性8名）

退去先内訳 ・法人内特養 6名 ・他法人特養 1名 ・自宅 2名 ・館内居室変更 1名

・年度内契約者 7名（男性4名 女性3名）

契約動機内訳 ・法人内居宅紹介 3名 ・他法人居宅紹介名 4名

・契約者数内訳：人（性別）

性別	契約数
男性	15
女性	27
合計	42

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

年代	65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上 85歳未満	85歳以上	合計
合計	0	0	9	33	42

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：支援2

介護度	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
合計	5	2	5	17	9	4	0	0	42

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅…24名 ・訪問…20名 ・通所…7名

・食事 契約者数…37名 自炊者…5名

・食事提供数

(単位：食)

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	866	853	833	848	785	768	837	855	851	798	741	848	9833	823.5	27.0
昼食	868	903	822	876	799	737	777	803	809	800	714	809	9717	809.7	26.6
夕食	1107	1101	1027	1103	1000	949	1061	993	995	978	901	1031	12246	1020.5	33.5
月合計	2841	2857	2682	2827	2584	2454	2675	2651	2655	2576	2356	2688	31796	2649.6	87.1

・生活相談件数

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
件数	409	440	415	409	336	448	496	385	393	323	379	454	4887	407

・健康相談件数

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・有償サービス利用件数

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
件数	62	42	30	38	38	41	39	32	27	31	20	30	430	35.8

・入居活動件数

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
営業	4	2	6	13	3	18	14	6	8	5	5	3	87	7.2
問合せ	2	3	3	4	3	6	6	6	6	3	5	4	51	4.2
見学	2	2	2	2	2	6	6	2	2	2	4	3	35	2.9
見学者	4	3	4	3	4	14	8	4	4	4	8	4	64	5.3
入居相談 面接	4	2	6	3	3	7	13	7	6	4	13	3	71	5.9

・イベント実施報告

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
実施数	6	0	2	6	5	7	17	20	20	21	17	23	144	12
参加者	61	0	67	133	111	114	163	197	263	211	239	272	1831	152.5

・生活支援バス利用者数

	R2.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R3.1	2	3	合計	平均
西大寺	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	4.25
高の原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
買い物等	100	118	120	108	114	94	134	138	134	120	112	151	1443	120.2
合計	151	118	120	108	114	94	134	138	134	120	112	151	1494	124.5

平城園診療所

利用者の健康管理と日常的な診療を行い、重症者については関連病院との連携により迅速に対応した。特養の入所者に関しては、医務室看護師と共に疾病予防医療についての運営を行い、法人職員に関しては、定期健康診断の実施及び、衛生管理者との連携を図り、業務による疾病予防と健康管理に努めた。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
R2 年度延人数	5,764	80	190	6,034
R1 年度延人数	5,400	105	274	5,779

福寿会マミーズ保育園

4月より、定期利用1名（地域枠）を迎え、新年度をスタートしたが、コロナウイルスによる、緊急事態宣言が発令され、在宅勤務の保護者には、家庭保育をお願いすることとなった。その結果、4月20日～5月22日まで保育園を休園することとなり、令和2年度は施設訪問なども自粛、感染症対策をしながらの保育となった。定期利用の園児のみ、登美ヶ丘マミーズへ行き、さつまいも堀りに参加した。定期利用以外に、出産などの里帰り、リフレッシュ、週に数回のお仕事等の理由で利用が可能な一時預かり保育も春、夏、冬休みを中心に園児が増え、企業主導型保育事業ならではの地域に密接した、保護者の意向に寄り添った保育園に成長しつつある。利用者のニーズに寄り添い、面接時の利用目的などをしっかりと保育士間で情報共有し、乳幼児期に大切な「情緒の安定」が保てるよう子ども一人ひとりに寄り添った保育を提供できるように、今後も安全で地域に密接した保育をご提供していきたい。

・利用者延人数

(単位：人)

	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3	
	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一
0歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	19	11	19	18	55	7	57	9	53	15	66	26
1・2歳児	12	3	5	0	22	3	41	8	39	10	18	9	22	28	19	21	31	10	38	10	18	12	23	23
3歳児	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	4	0	0	0	5
4.5歳児	0	22	0	9	0	23	0	15	0	40	0	7	0	33	0	23	0	30	0	7	0	8	0	14
合計	12	25	5	9	22	27	41	27	39	50	18	21	41	92	38	62	86	47	95	30	71	35	89	68

福寿会配食サービス（奈良市委託事業）

新体制2年目となった中、利用者には選ばれる配食サービスになるための課題については、本格的な営業活動を行う事は出来なかったものの、これまで培ってきた手渡しによる安否確認とニーズの把握を丁寧に行い、食事の内容や苦情についてもできる限り柔軟で素早く対応するよう努めた。奈良市からの年間委託数が昨年度比1.4倍増となったことで一定の効果が見られたと考える。

また、未曾有のコロナ禍の中での活動となったが、直接手渡しをすることで返って不安に思われるご利用者もおられるのではないかとという視点から、利用者目線での感染対応を心がけた。感染予防の装備を身につ

け消毒キット等も持参し、悪戦苦闘しながらも「安心」と「健康」と「笑顔」をお届けするという事業計画の趣旨に沿うことが出来たのではないかと思います。

新年度にあたっては、新体制下2年余りの活動で得た経験や知識を整理し、営業エリアの見直しや新規の開拓等についても実施していきたい。

(1) 配食サービス実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託配食数	1,268	1,252	1,333	1,428	1,317	1,357	1,445	1,368	1,494	1,313	1,269	1,441	16,285 (前年比+403)
自費による配食数	1,072	1,064	1,064	1,059	964	1,076	1,092	1,087	1,113	1,015	986	1,040	12,495 (前年比+137)
合計	2,340	2,316	2,397	2,487	2,281	2,433	2,537	2,455	2,607	2,328	2,255	2,481	28,917 (前年比+540)
配食日数	26	26	26	27	26	26	27	26	26	24	24	27	311
1日平均配食数	90.0	89.1	92.1	92.1	87.7	93.5	94.3	94.4	100.2	97.0	93.9	91.8	92.9 (前年比+0.17)

(2) 奈良市よりの新規委託件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規件数	2	4	1	6	2	1	3	3	3	1	3	4	33 (前年比+10)

(3) 令和2年度利用者数(令和3年3月31日現在配食者数)

- ・奈良市委託分 100名 (前年比 +6名)
- ・自費 61名 (前年比 ±0名)

□委員会活動

<感染症対策委員会>

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、毎月の定例会議を中止し、奈良県感染症情報や厚生労働省からの新型コロナウイルスに関連した資料の配布を行った。新たな情報は職員全体で共有に努め、統一した感染症予防対策が出来るよう委員会を中心に改善する事が出来た。また、感染症発生時の対応を想定したゾーニング等のシミュレーションを行い、非常時に備えることができた。平穏時から、標準的予防策として、職員出勤時の手洗い・手指消毒の励行、検温、マスクやフェイスシールド・ゴーグルの着用を徹底し、濃厚接触に当たらない対応を実施し、利用者及び職員の感染予防と感染拡大防止に努めた。

感染症を持ち込まないための防止対策として特に職員及び職員の同居家族の体調不良時の報告を徹底し、職員の意識の向上に努めた。

<リスク対策委員会>

感染症拡大防止対策により、各担当委員が集まって話し合うことはできなかったが、毎月、各部署から事故内容、対応策、経過についての報告書集計をまとめ、共有に努めた。

記録に残す習慣付けの定着により、分析や速やかな対応策を講じる意識が高まった。

来年度は、事故発生の検証を行うと共に、安全な介助方法の見直し、統一についても対策の一環として委員から発信していけるようにしたい。また、高齢者虐待、身体拘束廃止についても同様に委員会内で勉強会、意見交換の時間を設けて意識を高めたい。

<研修委員会>

本年度、計画していた園内の集合研修については、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、集合研修は実施せず、資料配布を行い、各職員が自己学習を行った。褥瘡対策ケア、感染症対策、身体拘束廃止、虐待防止、看取り介護、事故発生防止等の資料配布を実施。

新型コロナウイルスの対応については、奈良県主催の外部研修や、実際に法人施設へ感染管理認定看護師の訪問があり、施設内ラウンドを受けゾーニングの方法や改善点などを直接指導頂くことができ、全職員への周知に努めた。

○令和元年度実習生受け入れ状況

学校名等	人数	期 間
介護労働安定センター	2名	令和 3. 1. 20 ～ 1. 21 (2日間)
	2名	令和 3. 1. 25 ～ 1. 26 (2日間)
奈良県介護支援専門員実務研修	1名	令和 3. 3. 29 ～ 3. 30 (2日間)

登美ヶ丘マミーズ保育園（定員 90 名）

令和2年度は、コロナ禍の厳しい現状下であり、園児の安全のために行事を縮小したり保育活動を制限したりすることが度々あった。園内における新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、園内の定期的な消毒、職員、園児の手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用（3歳児以上）の徹底を常に心がけた。

しかし、子どもたちにとってはかけがえのない乳幼児期であり、通常のことになかなかできない状況ではあったが、小さな喜びをたくさん積み重ねて、少しでも子どもたちの心を豊かにできるよう工夫しながら丁寧に保育をすすめた。

「マミーズ農園」では、子どもたちが、毎日季節の野菜に水を上げたり、収穫したり、給食時に調理し美味しくいただいたりと食育にも力を注いだ。また、外部講師として外国人による英会教室、体操教室などの活動も積極的に取り組んだ。

令和2年4月には、38名だった園児も、令和2年度に有能な職員（保育士）を積極的に採用したこともあり、毎月の園児数を着実に増やすことができ令和3年3月には63名となり経営の安定につなげることができた。

・毎月行事・・・避難訓練・誕生日会・身体測定

《実施日》

令和2年度 登美ヶ丘マミーズ保育園 園児数 実績報告

- 4月4日 入園式
- 5月14日 サツマイモの苗植え
- 8月17日～28日 個人面談
- 9月1日～2日 検尿
- 9月4日 内科検診
- 9月28日 おいもほり
- 10月2日 交通安全教室
- 10月8日 眼科検診
- 10月16日 お店屋さんごっこ
- 10月23日 遠足ごっこ
- 10月29日 歯科検診
- 10月30日 運動会ごっこ
- 11月25日～27日 作品展
- 11月26日 第一生命(株)助成金

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	3	12	12	5	5	1	38
5月	3	12	13	5	4	1	38
6月	3	12	13	6	5	1	40
7月	5	12	13	6	5	1	42
8月	6	12	17	6	5	1	47
9月	6	12	18	6	5	1	48
10月	6	16	18	7	5	1	53
11月	9	16	18	7	5	1	56
12月	12	16	18	7	6	1	60
1月	12	16	18	7	7	1	61
2月	12	17	18	7	7	1	62
3月	12	18	18	7	7	1	63

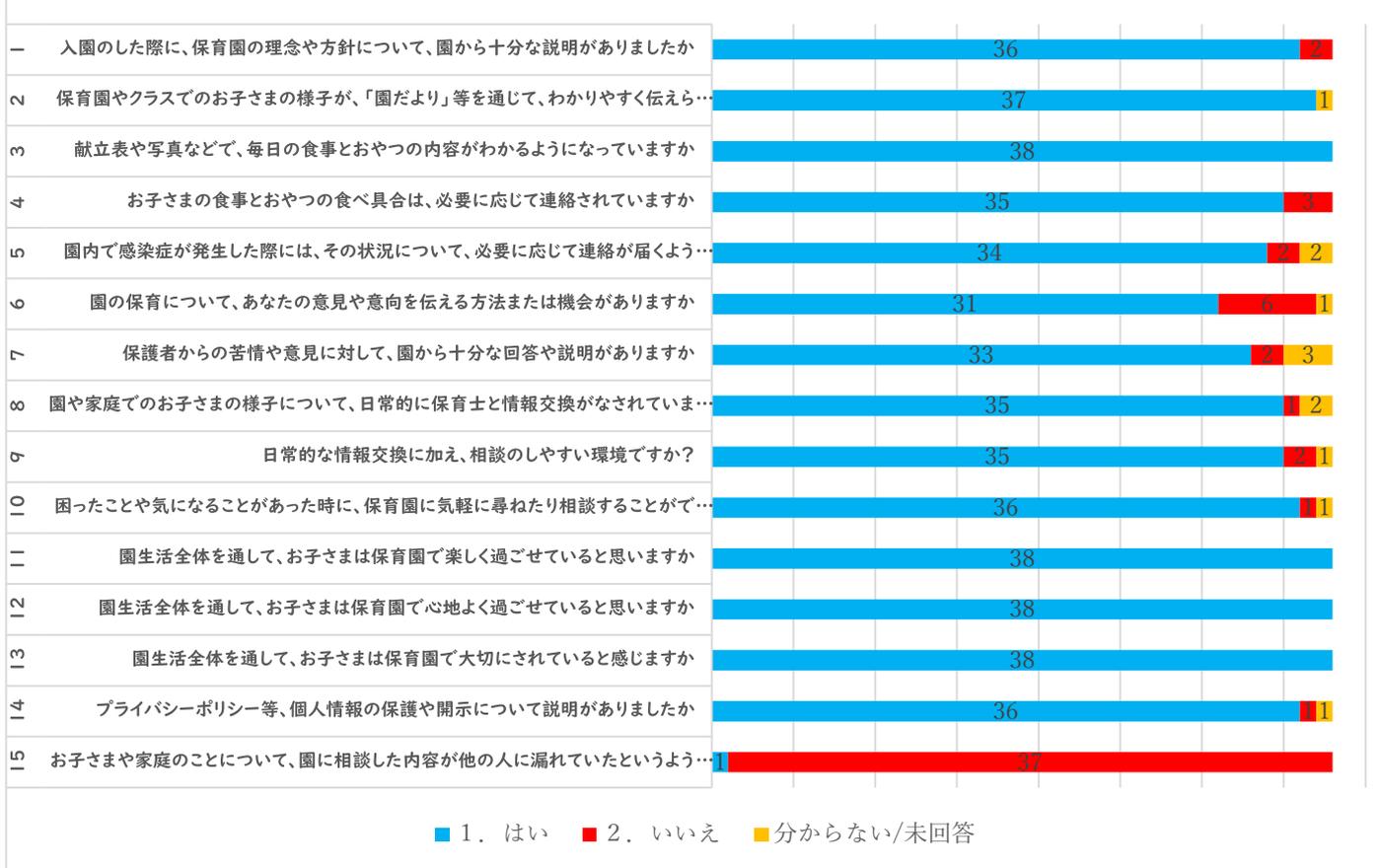
目録贈呈式

- 12月7日 ピザカー（ピザづくりの体験）
- 12月14日 英会話教室開始
- 12月25日 クリスマス会
- 2月2日 節分
- 3月3日 ひな祭り
- 3月10日

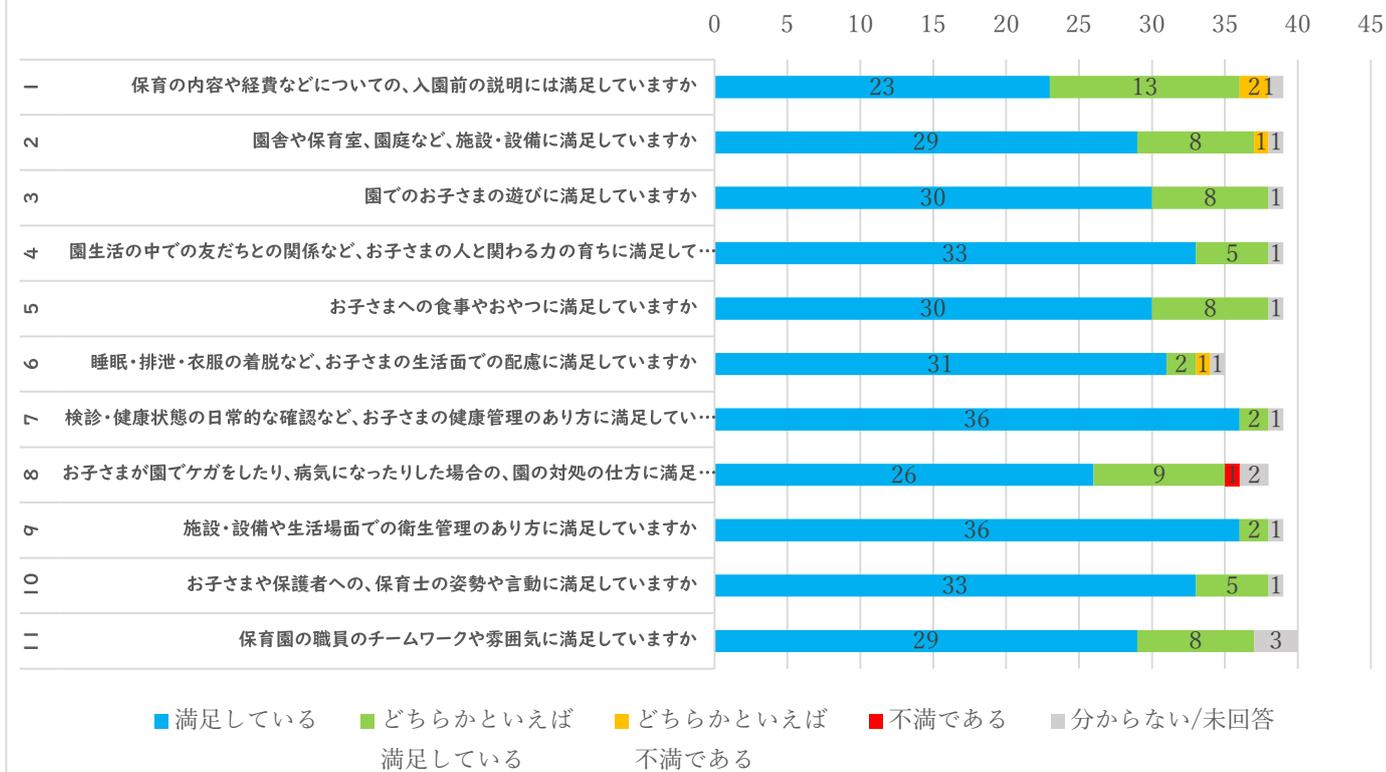
令和2年度 一時預かり保育 利用児童数 実績報告

4月	26	10月	53
5月	21	11月	84
6月	31	12月	72
7月	35	1月	67
8月	30	2月	103
9月	31	3月	105
		合計	658

令和2年度保護者アンケート結果



令和2年度保護者アンケート結果



(5) 令和2年度 出張・研修結果一覧

今年度の研修については新型コロナウイルス感染症の状況により、集合研修はほぼ中止となった。オンラインでの会議システム ZOOM を用いての研修が主流となった。システムの整備などの準備があり、9月からの研修参加が可能となった。

☆ならやま園

出張日	人数	出張先	目的
9月3日	1	桜井市立図書館	奈良県社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応訓練
9月12日	1	オンライン会議 ZOOM	令和2年度 第1回 奈良市他職種連携研修会
10月9日	1	オンライン	第31回 生活相談員るいとも
11月20日	1	田原本青垣生涯学習センター	副安全運転者講習
11月25日	6	オンライン	令和2年度 奈良市老人福祉施設協議会研修会
12月10日	1	オンライン	令和2年度 奈良県認定調査員新任研修
12月14～15日	1	オンライン	2020年度ユニットケア研修
12月19日	1	オンライン	第32回 近畿地域福祉学会 奈良大会
12月19日	1	オンライン	令和2年度 第1回 顔の見える他職種連携会議中ブロック平城圏域研修会
1月25日	1	オンライン	令和2年度 近畿老人福祉施設協議会災害対策研修会
2月5日	1	オンライン	施設における新調理システム導入セミナー
2月19日	3	オンライン	近畿老人福祉施設協議会 「2021年度介護報酬改定で何が変わる？」
3月12日	2	オンライン	令和2年度 奈良県老人福祉施設協議会オンライン通常総会
3月14日	2	奈良コンベンションセンター	福祉のお仕事フェア 2021
3月22日	1	ハローワーク奈良	事業所説明会

☆平城園

出張日	人数	出張先	目的
7月17日～	1	エルトピアなら 小会議室1	実習指導者講習会
9月3日	1	桜井市立図書館	奈良県社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応訓練
9月4日	1	奈良市西部会館市民ホール	令和2年度 安全運転管理者講習
10月5日～	1	橿原市役所分庁舎ミグランス	奈良県子育て支援員（地域保育コース・地域型保育園）研修
10月20日～	1	オンライン	令和2年度介護支援専門員更新（専門）研修「専門研修課程Ⅱ」
11月26日	1	奈良商工会議所	精神科医が診た労働者のメンタルヘルス
12月15日～	1	web 研修	令和2年度企業主導型保育事業「保育安全研修」
12月17日	1	オンライン	令和2年度奈良県老人福祉施設協議会 施設長連絡会議
12月19日	1	オンライン	令和2年度 第1回 顔の見える多職種連携会議中ブロック
12月25日～	1	オンライン	令和2年度 社会福祉法人会計基準実践的基礎講習

1月19日	3	オンライン	令和2年度第2回奈良県社会福祉法人経営セミナー
1月21～7日間	1	オンライン	令和2年度介護支援専門員更新（専門）研修「専門研修課程Ⅱ」
1月25日	1	オンライン	令和2年度 近畿老人福祉施設協議会 災害対策研修会
1月28・29日	1	オンライン	2020年度ユニットケア研修ユニットリーダー研修（オンライン）
2月5日	1	オンライン	令和2年度施設における新調理システム導入セミナー
2月8日	1	オンライン	令和2年度 近畿老人福祉施設協議会 養護老人ホーム職員研修会 「ココロがふっと軽くなる マインドフルネス実践研修会」
2月18日～	1	オンライン	キャリアアップ研修 マネジメント
2月18日～	1	オンライン	キャリアアップ研修 保育者支援・子育て支援
2月26日	1	オンライン	令和2年度保育所等におけるアレルギー疾患に対する普及啓発講習会
3月14日	1	奈良コンベンションセンター	福祉のお仕事フェア2021
3月19日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会 令和2年度第2回総会・セミナーの開催について

（6）地域公益活動報告

【福寿会コミュニティバスの運行】と【地域清掃】については活動の継続を試みようとしたが、コロナ禍にあつて法人として協議を行った結果、年間を通じて活動を見合わせる事となった。

今後については、コロナ禍においても実施していくことが出来ることはないかという視点から、文字通り地域にとって望ましい活動を模索していきたい。